

# 対人的志向性が「沈黙」と「情報過多」場面における反応に及ぼす影響

福島大学教育学部  
教育基礎コース 発達臨床心理専攻  
100410019 佐々木 純

## 要旨

人間関係に対する敏感さが「沈黙が続く場面」、「情報過多場面」などにおける反応に影響しているのではないかと考え、人間関係に対する敏感さを表す対人的志向性尺度が2つの場面における態度と行動にどう影響するのか調査した。大学生121名に対して「沈黙場面」、「情報過多」のそれぞれの場面においてどのような反応をとるか態度と行動の項目にわけた質問紙により回答を得た。因子分析によって得られた、沈黙・情報過多場面の態度・行動の下位尺度得点と、対人的志向性尺度の下位尺度得点の相関を求めた。態度については、対人的志向性は沈黙場面では「行動志向性」に、情報過多場面では「ポジティブ感情」「ネガティブ感情」に影響を与えることが明らかになった。2つの場面における態度は、対人的志向性の影響を確かに受けているが、場面の違いによって影響を受ける因子が異なることは、「沈黙」「情報過多」場面が人に与える影響についての違いをさらに検討する必要がある。行動については、対人的志向性は沈黙場面では「積極的コミュニケーション志向」「接触志向」に、情報過多場面では「分析志向」に影響していることが明らかになった。場面によって対人的志向性の影響を受ける因子が異なることは、態度と同じく場面の違いを検討する必要がある。また、それぞれの場面で対人的志向性が態度・行動に与える影響には男女差が見られた。